

■**栖山佐渡** 藩家老。百姓一揆に藩主の非を言上、免職・復職を繰り返し、<戊辰戦争>では、藩の責任背負って斬首に。

ならやまさど

富嶽三十六景1831＝ 陸奥国盛岡で、南部藩家老栖山隆翼の庶子に生まれる。

叔母が38代藩主の側室で、39代・40代藩主の母であったことから、

・ ・ ・ ・ ・ 1836＝ 5歳： 早くも、40代藩主南部利剛の小姓役に召し出され、
大塩平八郎乱1837＝ 6歳： 戸田一心流を学び、

勸進帳初演・1840＝ 9歳： 以後、常に藩主の傍に仕え、

阿部正弘首座1845＝14歳：

北斎没・ ・ ・ 1849＝18歳：

万次郎帰国・1852＝21歳： *加判役(家老)となった直後、
ペリー来航・1853＝22歳： *南部藩最大といわれる三閉伊大百姓一揆が勃発、藩主の鎮圧の命に一同無言のままのなか、末席ながら立上がり、'百姓の怨みの対象たる側近の3人の奸臣がいる限り、非は藩主にあって、鎮圧はできない'と言上し、免職となるも、藩主が結局奸臣を罷免して、復職となったのをはじめ、

五ヶ国条約・1858＝27歳：

桜田門外変・1860＝29歳：

開明派・利義派の東中務に対する守旧派・利済派として、若手加判役を代表し、ともに、難局にあたって、所信をまげずに免職・復職を繰り返すうち、

大政奉還・ ・ 1867＝36歳： 王政復古となり、
明治維新・ ・ 1868＝37歳： *戊辰戦争が起こると、奥羽列藩同盟に入るかどうか藩を二分する激論になるが、東中務が謹慎中だったこともあって、藩論を佐幕に統一させ、列藩同盟を破約した秋田佐竹藩に向け、兵を率いて出陣するも、官軍の前に太刀打ちできず捕縛され、藩論も一変して嘆願書を出す様となるも謹慎・改易となった藩主が、
戊辰戦争終・1869＝38歳： *献金と引換えに盛岡復歸を許されると、全国に先駆け版籍奉還するも、新政府に尾去沢銅山を奪われ、豪商小野組を潰されるなどする間、賊軍となった藩の罪を一身にかぶって、斬首刑となった。

「人づくり風土記(岩手)」、